

社会にインパクトある研究

D. 世界から敬愛される国づくり



D1 創造日本学



創造する日本学

世界が共感する日本文化の価値の探求

プロジェクト理念



従来の地域研究としての日本学の特殊性を克服して、**日本文化の普遍的な意義を見出し、新たな文化的価値を創造することによって**、価値観が多様化するなかで混迷を深めている世界に、**日本文化の「普遍的な独自性」を提示することを目指す。**

日本は、長い歴史的経緯のなかで、渡来する諸外国の文化を受容し、また、わが国独自の文化を开花させてきた。この受容と創造の歴史過程のうちには、世界の人々が共感しうる、**普遍化可能な独自の文化と多文化融合の可能性**が秘められており、この可能性を尋ねつつ、**日本の文化的価値を再構築し、新たな人間理解の方向性を創造することが**、重要な課題となっている。

地理的にも文化的にも日本の周縁をなしてきた**東北地方は、日本を内からも外からも眺めることができる位置にある。**そのような場で東北大学が培ってきた各分野の研究成果を結集・融合することによって、まさしくこの課題の解決に貢献し、**世界の人々の心を豊かにする視点および思考方法を切り拓くことが可能になるであろう。**



プロジェクト概要

1 社会的課題

世界では、グローバル化が進行する中、**価値観の衝突**によって**対立や紛争の激化**、**他者を排除する思想**の広がり、**自然環境の破壊**など深刻な問題が生じている。日本においても、様々な社会問題が顕在化し、**新たな価値の創出**が求められている。また、世界へ向けた日本の文化的価値観の発信も近年その必要性が叫ばれているが、**日本の情報発信力の不足**は対外的なプレゼンスの低下を招く結果となっている。

2 解決の方法

本プロジェクトは、日本文化の普遍的な意義を見出し、新たな文化的価値を創造することを目的とした**新しい日本学**、「**創造する日本学**」を構築し、日本文化の「**普遍的な独自性**」を提示することを目指す。世界の人々が共感しうる文化的価値を提示することによって、世界、そして日本が直面する課題の解決に貢献し、世界の人々の心を豊かにする視点や思考法を創造する。

3 東北大学の強み

東北大学は、**伝統的な日本学の豊富な蓄積**があるばかりでなく、**全世界の主要な大学との連携による新しい研究の推進**にも取り組んでいる。さらに、**東北地方に根ざした地域文化の研究**においても実績を上げている。このような特色のある研究成果を結集・融合することによって、今までになかった新たな研究分野を開拓し、その成果を社会に還元することが可能である。

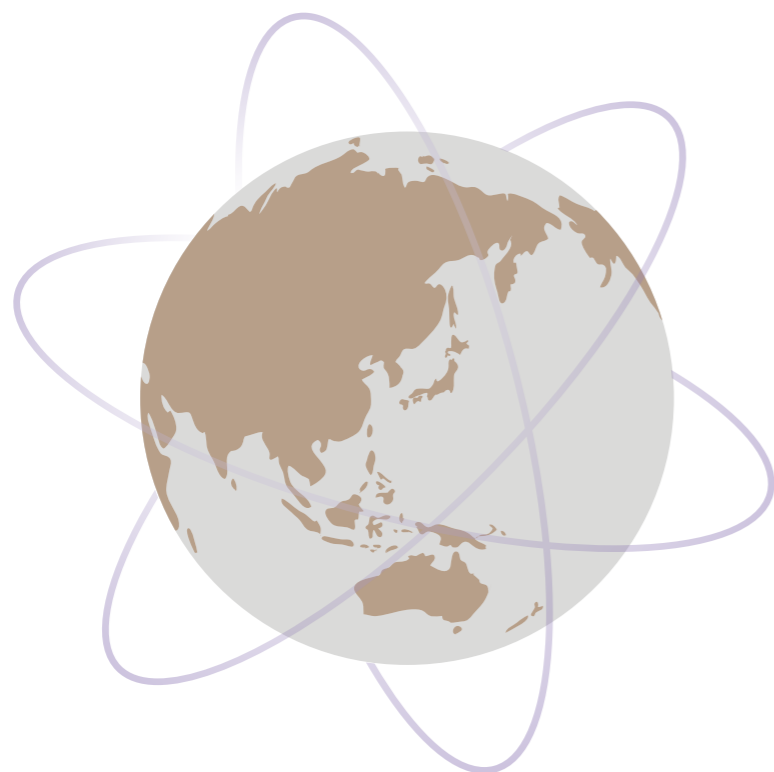
4 プロジェクトの効果

本プロジェクトでは、「調和と共感」「日本人の思想形成」「日本人の行動様式」「技術・ものづくり文化」「東北の地域社会」などのテーマに沿って**日本文化の創造的価値**を明らかにし、**学術・教育分野において貢献する**だけでなく、**政府の対外事業への参画**、**企業や地域との連携事業の推進**などによって日本の文化力向上、価値の対立によって生じる問題の解決を目指す。

5 組織体制

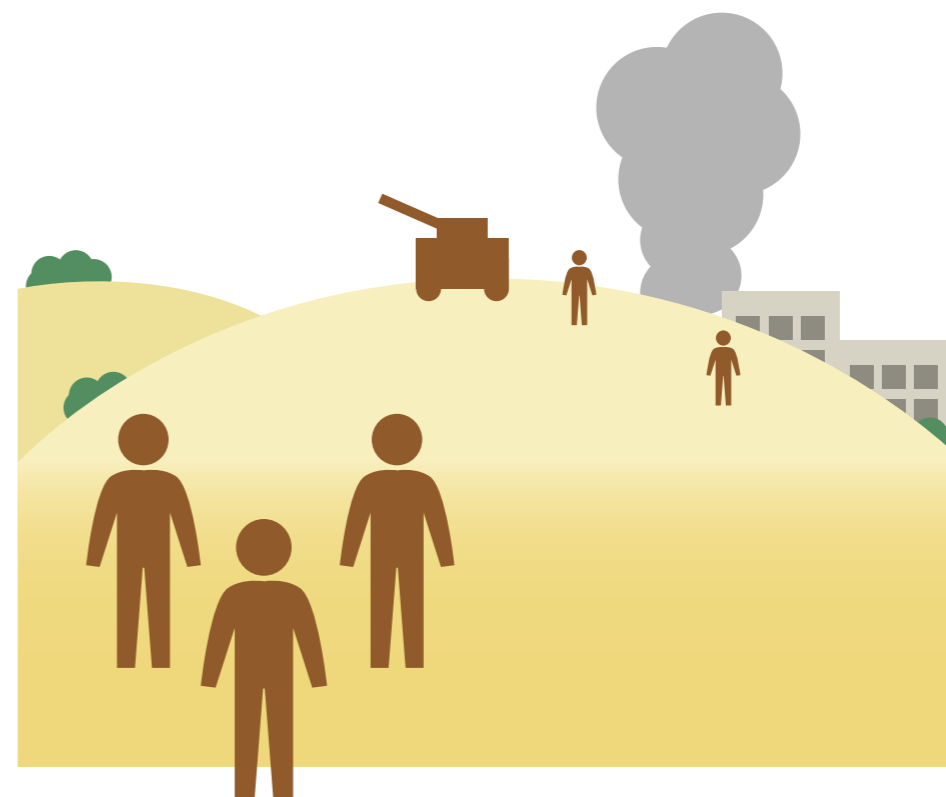
東北大学文学研究科、国際文化研究科、東北アジア研究センターに所属する、歴史、文化、言語、イメージの専門家が、それぞれのテーマごとに領域横断的な研究ユニットを構成してプロジェクトを推進する。

グローバル化する世界とその課題



グローバル化する社会

90年代以降広まったグローバル化により、それまでの世界が支えてきた文化的・制度的枠組みが揺らいでいる

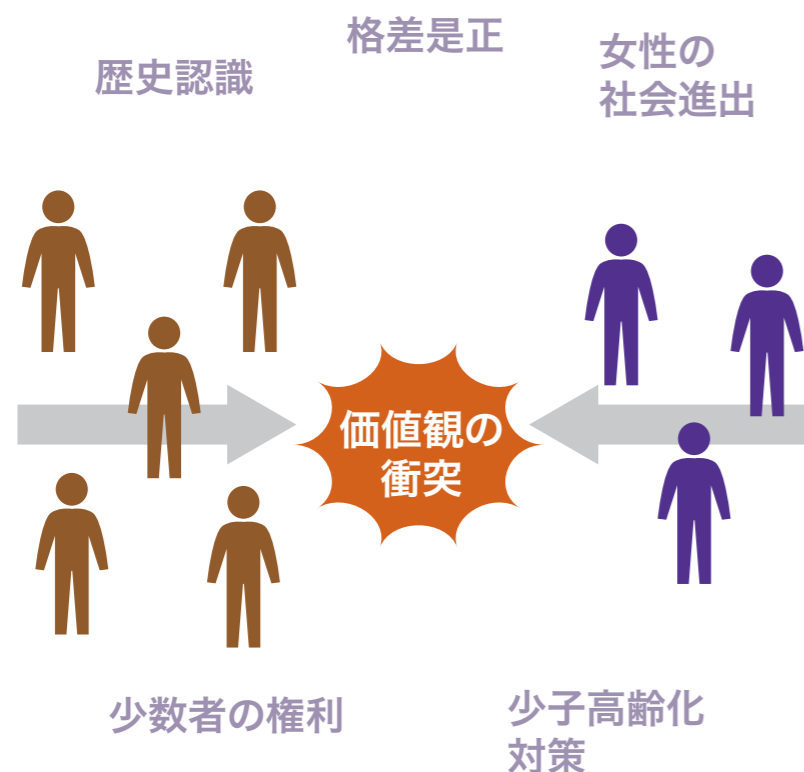


文化的価値観の衝突

合理性や利便性を追求した文化価値の画一化は、文化的多様性を抹消し、人間の尊厳を損なうという見方がある
現実に紛争や排除思想、自然環境への極度の負荷が生じている

文化的価値観の衝突を超えていく必要性

日本が抱える課題



価値観の衝突

グローバル化の波を受け、歴史認識、格差問題など価値観の衝突と捉えられる問題が現れている

情報発信の不足

日本への世界的関心は高いものの、世界から共感される日本文化の価値の発信には至っていない

ソフトパワー戦略の必要性

軍事・経済力等（ハードパワー）に対し、国際世論の心と精神を勝ち取る広報戦略（ソフトパワー）が求められている

日本独自の価値の創出と情報発信が必要

課題解決のコンセプト



- 日本は長い歴史の中で渡来する諸外国の文化を受容し、独自の文化を築いてきた。
- 調和や共感といった日本文化は自然共生や多文化融合の可能性を秘める。
- 日本文化の普遍的な独自性は世界に新たな視点や思考法をもたらさうる。

日本文化には価値観の対立を乗り越える可能性

プロジェクトの目標

日本の文化力の向上

日本の新たな文化的価値を再構築し、世界からの共感を得ていく

価値観の対立の緩和

調和や共感などの日本文化ならではの研究を通じ、対立への解決策を見出す

共生社会や持続可能社会の実現

日本独自の視点を世界に発信し、共生社会・持続可能社会に貢献する

日本の文化的価値の創造によって心豊かな社会へ

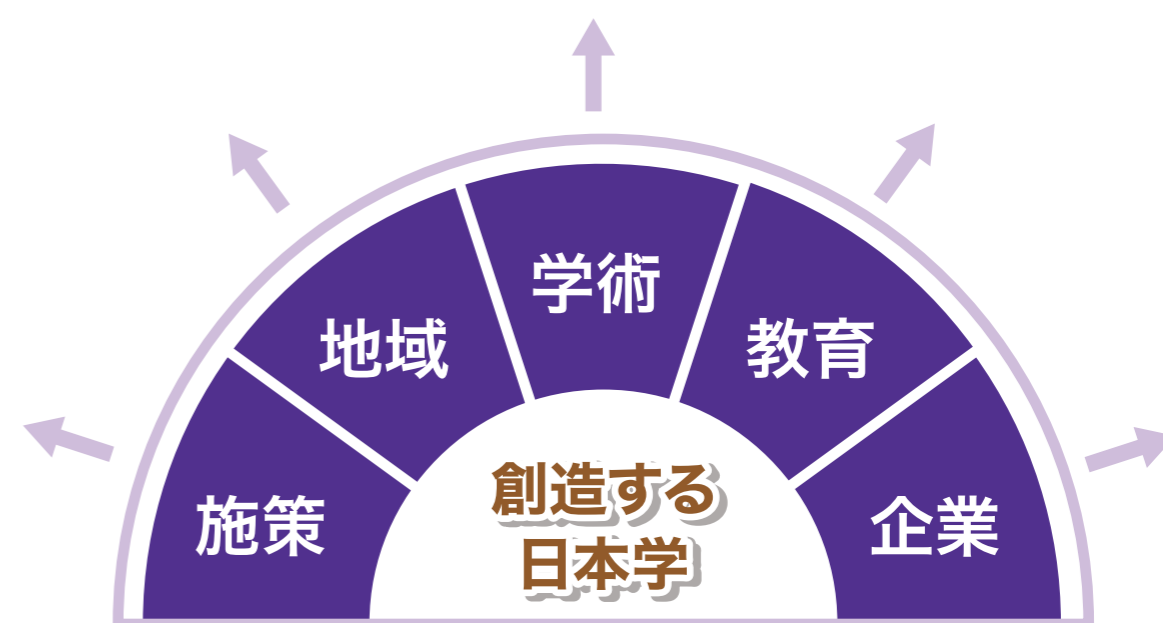
課題解決のシナリオ

① 創造する日本学の構築



学際的かつ多元的な視点から世界が共感する日本文化の普遍的価値を見だし、グローバル化する世界に新たな視点や思考法を提案する

② 社会への発信



創造する日本学の成果を施策・地域・学術・教育・企業へ発信し、現代社会が直面する課題解決につなげていく

創造する日本学の構築と普及によって課題解決を目指す

① 創造する日本学の構築

従来の日本学

日本をフィールドに歴史、社会、文化、言語などを研究する学際研究分野

日本学は主流ではない

世界的な人文学研究の主流は欧米視点であり、日本は特殊な一地域にみられてきた

外と内の視点のずれ

日本学の欧米研究者は外、日本人研究者は内の視点から研究してきた
視点のずれが研究の対話の障壁に



創造する日本学

日本文化の普遍的な意義を見出し、学術基盤に立って理論化することを通じて、世界が共感するような新たな文化的価値を創造する

視点のずれを乗り越える

外と内の視点のずれがどこにあるのか見極めて新たな可能性を見出す

世界が共感する価値の創造

国際的人文学研究での日本の存在意義を高め、新たな研究の潮流を作る

固有性と普遍性をつなぐ

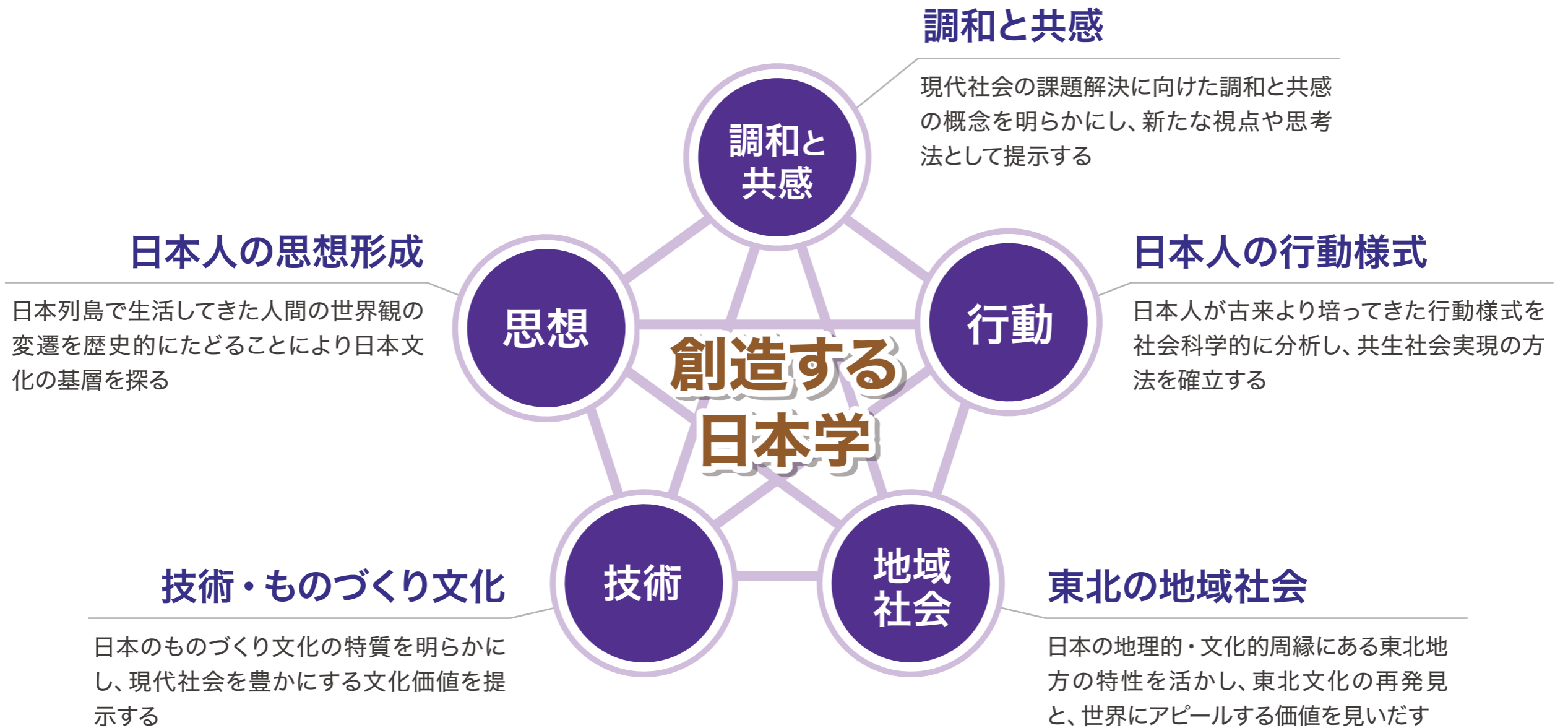
固有性と普遍性とのギャップをつなぐ新たな方法論を確立する

優位性は強調しない

日本の優位性や卓越性を強調せずに、世界が共感する価値を創出する

世界が共感する日本の文化的価値を探求する

主なテーマ



5つのテーマで創造する日本学を構築する

② 社会への発信



様々な発信方法を継続的に検討し、普及につなげる



研究事例 (P10「主なテーマ」のなかの具体的事例のいくつか)

資料調査に基づく地方史

東北文化を海外の日本研究にどう発信するか



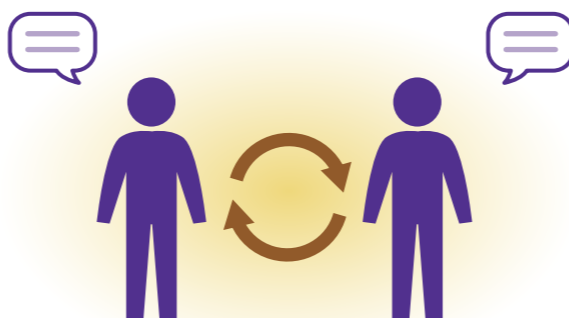
東北地方の資料を収集・整理し、独自の思想や文化を掘り起こして発信する
それらの資料を国外の研究者にも利用可能にする



東北文化を世界に発信

日本語から見た日本文化

日本文化の基層にある調和とは何か



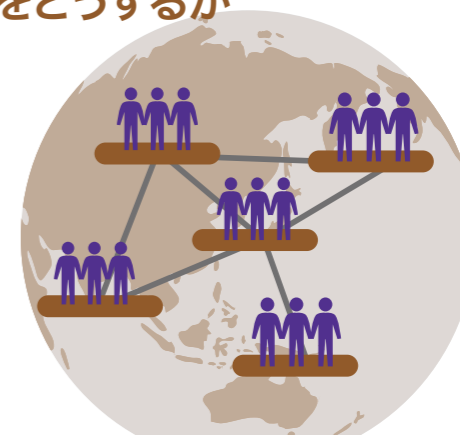
日本文化の基層にある「配慮」という日本に固有の文化価値を、日本語の解析から明らかにする
中国や韓国の研究者と共同研究を推進



世界が理解すべき文化価値を創出

近代日本の空間と移動

グローバル化で生じる移民や難民の問題をどうするか



近代における日本人の海外移住・進出の歴史をひも解き、その諸問題を国際共同研究で探求する
現代社会につながる普遍性を求める



移民や難民、文化接触の問題への解決策を提示

世界の人々の心を豊かにする文化の役割

東北大学の強み



大学院・研究センター

文学研究科

90年以上の歴史に裏打ちされた日本学の研究と国際ネットワーク

国際文化研究科

2015年より国際日本研究講座を新設すると同時に、「言語脳認知総合研究センター」で日本語研究を実施

東北アジア研究センター

海外大学と日本研究の交流を行い、日本学ワークショップ等を開催

東北地方という強み

地理的・文化的に日本の周縁をなしてきた東北は、日本を内と外から見ることができる特異な地域

学際研究重点プログラム

世界発信する

国際日本学・日本語研究拠点形成

- 国際的学術ネットワークの構築
- 新たな日本学の創出
- 研究成果の発信



Global Japanese Studies Initiative

グローバル人材育成

日本学国際共同大学院

感性の論理を基盤に置き、人間の尊厳・共感・持続可能性の実現を第一の目的として掲げ、紛争解決、幸福の追求といった喫緊の課題にコミットする

表象の日本学コース／資本の日本学コース／共感の日本学コース

日本学に関わる研究や教育蓄積を結集・融合していく

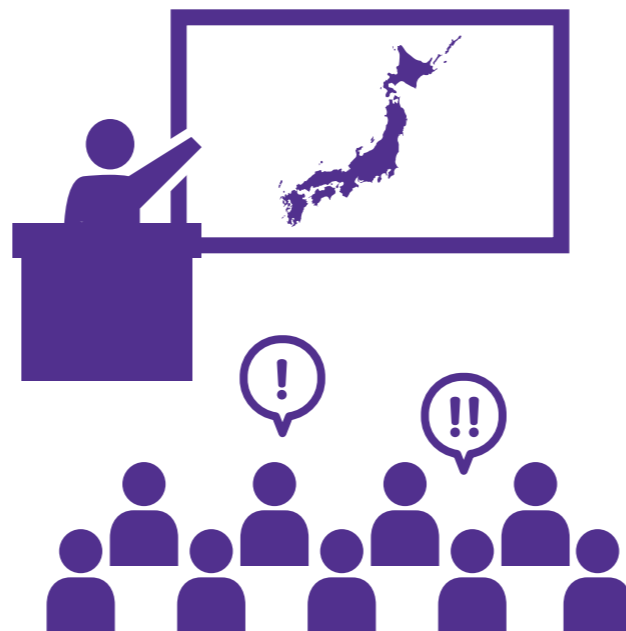
プロジェクトの効果

日本の文化力向上



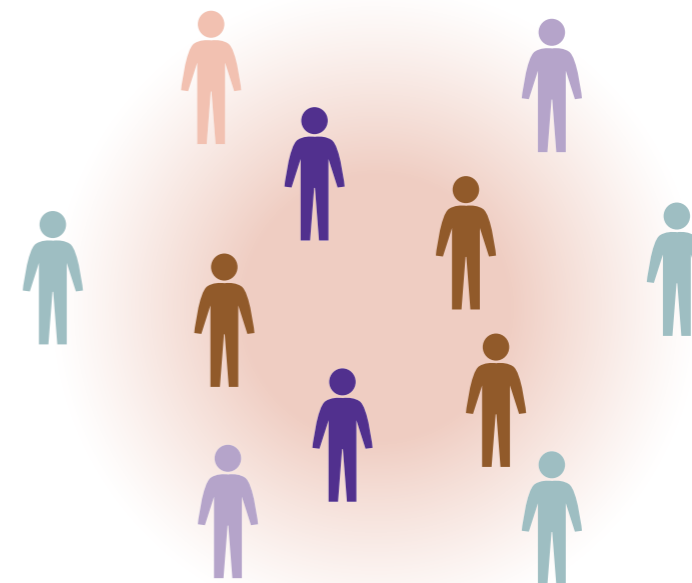
- 国際社会への情報発信強化
- ソフトパワーの強化
- 東北文化の再認識

国際的人文研究への貢献



- 新たな人間理解の方向性を提示

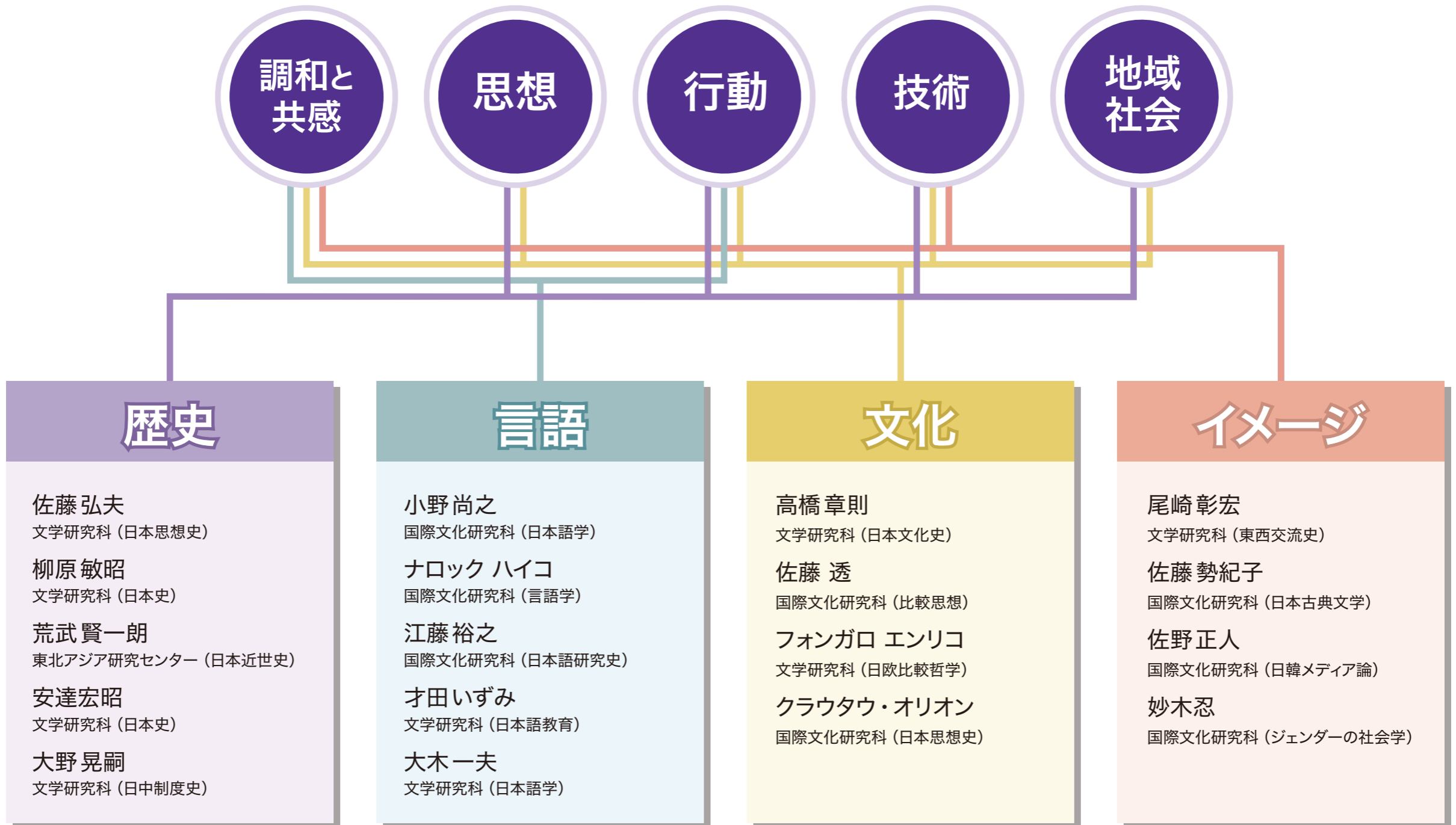
価値対立の解消



- 持続可能社会の実現
- 共生社会の構築

世界が共感する日本文化の価値創造

組織体制



今後のマイルストーン

